

(11 枚のうち第 1 枚目)

令和 5 年度 福井大学 国際地域学部
入学者選抜学力検査問題（後期日程）

小 論 文

国際地域学科

注意事項

- 1 この問題用紙は「解答始め」の合図があるまで開かないこと。
- 2 「解答始め」の合図の後、解答を始める前に、解答用紙 5 枚の所定の欄すべてに受験番号を記入すること。
- 3 解答は解答用紙の所定の解答欄に記入すること。
- 4 解答用紙にはマス目が入っている。句読点は 1 マス使用するなど原稿用紙の慣用的な書き方に従い、横書きで記入すること。
- 5 解答の下書きには別配布する白紙を使用すること。
- 6 試験終了後、解答用紙 5 枚を回収する。この問題用紙と下書き用紙は持ち帰ってもよい。

[問題訂正]

国際地域学部

教科・科目名 (小論文)

問1中の表1の中、誤字の修正。

上から13行目、余暇時間の測定単位の説明文

誤)・・・就業者が1日に当たりに・・・

正)・・・就業者が1日当たりに・・・

問 1

OECD（経済協力開発機構）は、各国の「より良い暮らし」の実現を目指す「より良い暮らしイニシアチブ（The OECD Better Life Initiative）」の一環として、幅広い指標による「幸福測定の枠組み（The OECD well-being framework）」を導入した。その作業の一つが、現在の幸福を形成する 11 の側面を抽出して各国の幸福の達成度を多面的に評価することであった。以下の【表 1】、【表 2-a】・【表 2-b】、【図 1】を読み、後の設問 1 と設問 2 に答えなさい。

【表 1】は、“How's Life? 2017”（邦題『OECD 幸福度白書 4』）で示されている、「幸福測定の枠組み」のうち、現在の幸福を形成する 11 の側面とその 25 の指標（具体的には「物質的な生活条件」に関する 3 つの側面とその 10 の指標、および「生活の質」に関する 8 つの側面とその 15 の指標）と各指標の測定単位を示したものである。

【表1】現在の幸福を形成する11の側面・25の指標とその測定単位

	側 面	指 標	測 定 単 位（★は数値が低いほどスコアが上位と判定されるもの）
物質的な生活条件	所得と富	家計の所得	1人当たりの家計の調整純可処分所得 ¹⁾
		家計の純資産	1人当たりの家計の純資産 ²⁾
	仕事と報酬	就業率	15～64歳人口に占める就業者の割合
		報酬	フルタイム雇用者の1人当たりの平均年間報酬
		雇用の不安定	★失業に伴って予想される損失（前年の報酬に対して占める割合）
		長期失業率	★1年以上の失業者が労働力人口 ³⁾ に占める割合
	住居	仕事のストレス	★仕事のリソース ⁴⁾ よりも仕事の要求の方が多いと回答した雇用者の割合
		1人当たりの部屋数	平均部屋数（住居内の部屋数を居住者数で除したもの）
		住宅取得能力	★住居費（家計の調整純可処分所得に占める割合）
		基本的な衛生設備	★世帯専用の屋内水洗トイレのない住宅に住む人が全人口に占める割合
生活の質	ワーク・ライフ・バランス	長時間労働	★日常的に週50時間を超えて働く雇用者数の全雇用者数に対する割合
		余暇時間	フルタイム就業者が1日に当りに充てるレジャーとパーソナルケアの時間
	健康状態	出生時平均余命	生まれたばかりの赤ん坊が生きて予想される平均年数
		主観的な健康状態	健康状態が「良い」「非常に良い」と回答した人の16歳以上人口に占める割合
	教育と技能	労働年齢成人の学歴	25～64歳人口に占める後期中等教育以上の終了者の割合
		成人力	16～65歳人口における数的思考力と読解力の平均習熟度（スコア）
		15歳児の認知技能	15歳児の読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの平均スコア
	社会とのつながり	社会的ネットワークによる支援	いざというとき頼りになる友人や身内がいると回答した人の割合
		市民参加とガバナンス	政府への発言権
	環境の質	投票率	政府の活動に対して発言権を有していると感じる16～65歳人口の割合
		水質	選挙人登録者数に対して国政選挙で投票した人の割合
	生活の安全	大気質	全人口に対して水質に満足していると回答した人の割合
		殺人率	★屋外大気汚染によるPM2.5 ⁵⁾ に対する人口全体の年間平均曝露量（3年間移動平均）
		安全感	★人口10万人当たりの加害による死者数（年齢構造調整後）
	主観的幸福	生活満足度	居住する町や地域を夜間一人で歩いて安全であると感じられると回答した人の割合
			各国統計局の提供による推計値に基づき、0～10の11段階尺度の平均スコア

1) 調整純可処分所得：総所得に家計が政府から受け取る現物社会移転を加え、そこから所得と資産に係る税金、社会保障負担を差し引いたもの

2) 純資産：民間家計が保有する実物資産と金融資産の合計から負債を引いたもの

3) 労働力人口：就業者数と失業者数の合計

4) 仕事のリソース：仕事の裁量、学習機会、職場の良好な人間関係など

5) PM2.5：粒子径2.5マイクロメートル以下の微小粒子状物質

（11枚のうち第4枚目）

この“**How's Life? 2017**”では、【表1】の「物質的な生活条件」と「生活の質」の2つのカテゴリーの各指標について、OECD加盟国の統計データを集計した上で、該当する指標のデータが欠如する国を除き、スコアが上位3分の1に属する国、中位3分の1に属する国、下位3分の1に属する国に分類して、各国の相対的な強みと弱みを示している。以下の【表2-a】・【表2-b】は、これについて、上位を10点、中位を5点、下位を0点（データ欠如は－）として評点化して示したものである。

【表2-a】 物質的な生活条件の相対的な強みと弱み（OECD加盟国）

	所得と富		仕事と報酬					住居		
	家計の所得	家計の純資産	就業率	フルタイム雇用者の平均年間報酬	雇用の不安定	長期失業率	仕事のストレス	1人当たりの部屋数	住宅取得能力	基本的な衛生設備
オーストラリア	10	10	10	10	5	5	5	10	10	-
オーストリア	10	10	5	10	5	5	5	5	5	5
ベルギー	10	10	0	10	0	0	10	10	5	5
カナダ	10	10	10	10	5	10	10	10	5	10
チリ	-	0	0	0	0	-	0	5	10	0
チェコ	5	-	5	0	10	5	0	0	0	5
デンマーク	5	0	10	10	10	10	10	5	0	5
エストニア	0	0	5	0	5	5	5	5	10	0
フィンランド	5	5	5	5	5	5	10	5	0	10
フランス	10	5	0	5	0	0	10	5	5	5
ドイツ	10	5	10	5	10	5	5	5	5	10
ギリシャ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
ハンガリー	0	0	5	0	0	5	0	0	10	0
アイスランド	-	-	10	10	10	10	5	5	0	10
アイルランド	5	5	0	10	10	0	10	10	5	10
イスラエル	-	-	5	5	10	10	5	0	-	-
イタリア	5	5	0	5	0	0	5	0	0	5
日本	5	-	10	5	10	10	0	5	5	0
韓国	5	5	5	0	10	10	0	0	10	0
ラトビア	0	0	5	0	-	0	5	0	0	0
ルクセンブルク	-	10	5	10	5	5	10	10	-	10
メキシコ	0	-	0	0	5	10	0	0	5	0
オランダ	5	0	10	10	10	0	10	5	10	10
ニュージーランド	-	10	10	5	0	10	10	10	0	-
ノルウェー	10	5	10	10	5	10	10	10	10	10
ポーランド	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0
ポルトガル	0	5	5	0	0	0	5	5	5	5
スロバキア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
スロベニア	0	5	5	5	5	0	5	5	10	10
スペイン	5	10	0	5	0	0	5	5	5	10
スウェーデン	10	-	10	5	0	10	10	5	10	10
スイス	10	-	10	10	10	5	0	5	5	10
トルコ	-	-	0	-	0	5	0	0	10	0
イギリス	5	10	10	5	10	10	5	10	0	10
アメリカ	10	10	5	10	5	10	10	10	10	10

令和5年度 福井大学 国際地域学部 入学者選抜学力検査問題（後期日程）
小論文（国際地域学科）問題用紙

（11枚のうち第5枚目）

【表2-b】 生活の質の相対的な強みと弱み（OECD加盟国）（次のページへつづく）

	ワーク・ライフ・ バランス		健康		教育			社会との つながり	市民参加と ガバナンス	
	長時間労働	余暇時間	出生時 平均余命	主観的な 健康状態	労働年齢成 人の学歴	成人力	15歳児の 認知技能	社会的ネッ トワークに よる支援	政府への 発言権	投票率
オーストラリア	0	0	10	10	5	5	5	10	5	10
オーストリア	5	0	5	5	5	5	5	5	5	5
ベルギー	5	10	5	10	0	10	5	5	5	10
カナダ	10	0	5	10	10	5	10	10	5	5
チリ	0	-	0	0	0	0	0	0	10	0
チェコ	5	-	0	0	10	5	5	5	0	0
デンマーク	10	10	5	5	5	5	5	10	10	10
エストニア	10	5	0	0	10	5	10	5	5	5
フィンランド	10	10	5	5	10	10	10	10	10	5
フランス	0	10	10	5	5	0	5	0	0	5
ドイツ	5	10	0	0	5	5	10	10	0	5
ギリシャ	5	-	5	10	0	0	0	0	10	5
ハンガリー	10	-	0	0	5	-	0	0	-	0
アイスランド	-	-	10	10	0	-	0	10	-	10
アイルランド	5	-	5	10	5	0	10	10	5	5
イスラエル	0	-	10	10	10	0	0	0	5	5
イタリア	10	5	10	5	0	0	0	5	0	10
日本	-	5	10	0	-	10	10	5	0	0
韓国	-	0	10	0	10	5	10	0	10	10
ラトビア	10	0	0	0	10	-	0	0	-	0
ルクセンブルク	10	-	10	5	5	-	0	5	-	10
メキシコ	0	-	0	5	0	-	0	0	-	0
オランダ	10	-	5	10	5	10	10	5	10	10
ニュージーランド	0	5	5	10	0	10	10	10	10	10
ノルウェー	10	10	10	10	5	10	5	10	10	10
ポーランド	5	0	0	0	10	5	5	0	5	0
ポルトガル	0	-	5	0	0	-	5	0	-	0
スロバキア	5	-	0	5	10	5	0	5	0	0
スロベニア	5	5	5	0	10	0	10	5	0	0
スペイン	5	10	10	5	0	0	5	10	0	5
スウェーデン	10	10	10	10	5	10	5	5	10	10
スイス	-	-	10	10	10	-	10	10	-	0
トルコ	0	-	0	5	0	0	0	0	0	10
イギリス	0	5	5	5	5	5	5	10	5	5
アメリカ	0	0	0	10	10	0	5	5	10	5

令和5年度 福井大学 国際地域学部 入学者選抜学力検査問題（後期日程）
小論文（国際地域学科）問題用紙

（11枚のうち第6枚目）

【表2-b】 （前のページからのつづき）

	環境の質		生活の安全		主観的幸福
	水質	大気質	殺人率	安全感	生活満足度
オーストラリア	10	10	5	0	5
オーストリア	10	0	10	10	10
ベルギー	5	5	5	5	5
カナダ	10	10	0	10	10
チリ	0	0	0	0	-
チェコ	5	0	5	5	0
デンマーク	10	10	5	10	5
エストニア	5	10	0	5	0
フィンランド	10	10	0	10	10
フランス	5	5	10	5	5
ドイツ	10	5	10	5	5
ギリシャ	0	0	5	0	0
ハンガリー	0	0	0	0	0
アイスランド	10	10	5	10	10
アイルランド	5	10	10	5	5
イスラエル	0	0	0	5	-
イタリア	0	0	5	0	0
日本	5	5	10	5	-
韓国	0	0	5	0	0
ラトビア	0	5	0	0	0
ルクセンブルク	5	5	10	5	5
メキシコ	0	5	0	0	10
オランダ	10	5	10	10	5
ニュージーランド	10	10	0	0	10
ノルウェー	10	10	10	10	10
ポーランド	0	0	5	5	5
ポルトガル	5	10	5	5	0
スロバキア	5	0	5	0	0
スロベニア	5	0	10	10	5
スペイン	0	5	10	10	0
スウェーデン	10	10	5	5	10
スイス	10	5	10	10	10
トルコ	0	0	0	0	-
イギリス	5	5	10	10	10
アメリカ	5	10	0	5	-

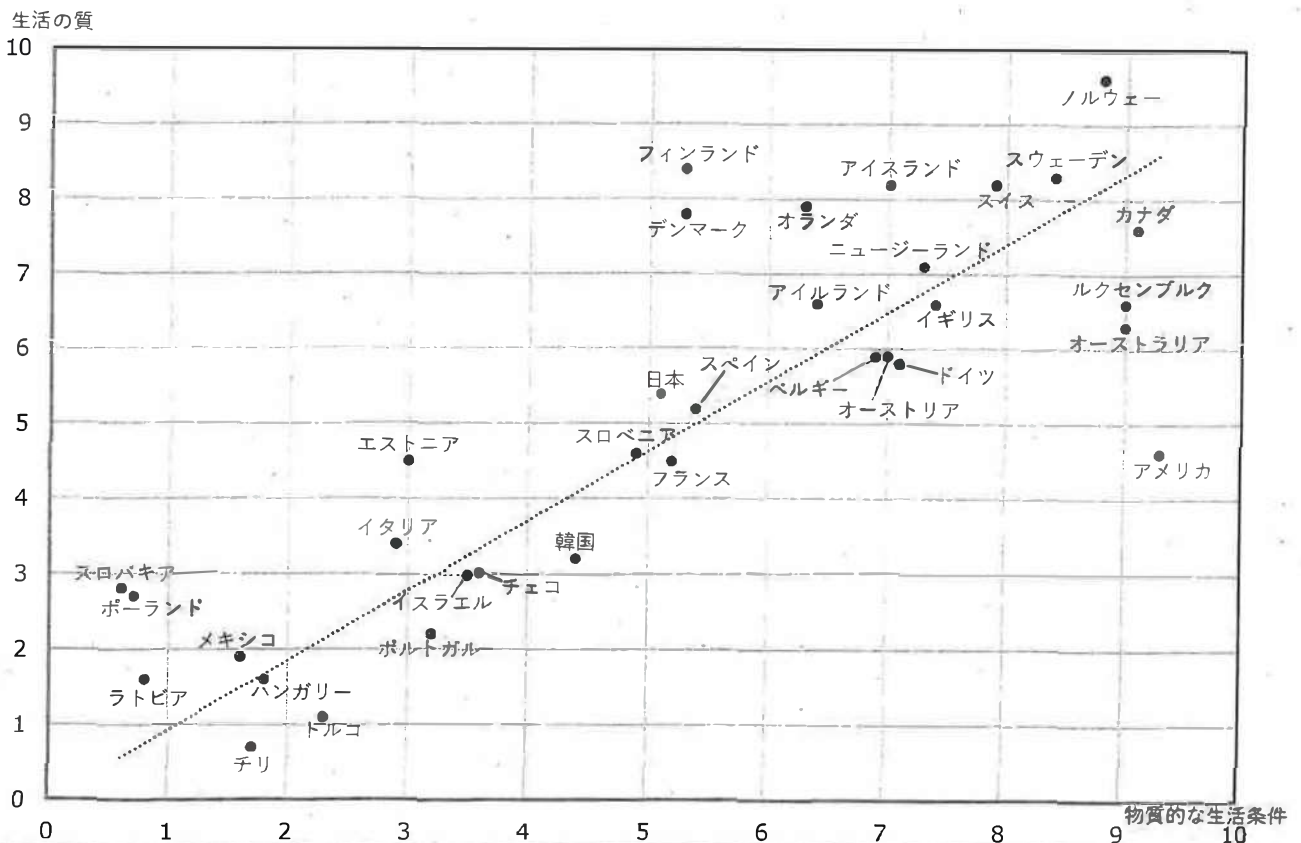
（11枚のうち第7枚目）

次に示す【図1】は、【表2-a】・【表2-b】の評点から得られる各加盟国の「物質的な生活条件」、「生活の質」それぞれの総合的な達成度を算出し、各国ごとの両者の関係を散布図に示したものである。総合的な達成度の具体的な算出方法は以下の通りである。

- ①各側面に含まれる指標の評点の平均値を算出する。ただし、データが欠如している場合は計算の分母から除く。
- ②「物質的な生活条件」と「生活の質」のそれぞれについて、各側面で得られた平均値をさらに平均した値を計算し、これをその国の総合的な達成度とする。データが欠如している場合は①と同様に計算の分母から除く。

【図1】の散布図をみると、データの欠如が多数存在する場合には総合的な達成度が過大ないし過小に評価がなされている可能性があるものの、両者の達成度の間には、ある程度の正の相関関係があるようである。

【図1】「物質的な生活条件」と「生活の質」の達成度の相関（スコア：0～10、最新データの得られた年）



設問1

- （1）「より良い暮らし」を実現する上での日本の有する「強み」と「弱み」について、
【表2-a】・【表2-b】および、【図1】から読み取り、他の国との比較を交えて300字以内で説明しなさい。
- （2）【図1】によると、「物質的な生活条件」と「生活の質」の達成度にはある程度の正の相関関係があるが、アメリカについては他の国の値から大きく外れた値を示している。アメリカが他の国と比較して異質であると考えられる点を【表2-a】・【表2-b】から読み取り、300字以内で説明しなさい。

設問2

【表1】で定義された各指標の測定単位は、実は、幸福の達成度に関するそれぞれの加盟国における住民の平均的な達成状況を示すものである。しかしながら、現実には、国内のすべての人々が同じように幸福であるわけではない。ある指標について、最上位の層と最下位の層との間の格差が大きい場合や、標準以下の暮らしをしている人々の割合が非常に大きい場合は、幸福の成果が不均等に分布していると考えられる。また、男性と女性、若年者と高齢者、高学歴と低学歴、移民と非移民などという人口集団間の属性の違いによって幸福の成果が異なることも多い。

“How's Life? 2017”はこの点にも考察を進め、各国内において「より良い暮らし」を実現する上での不平等について測定する方法を検討している。一例として、【表1】の「所得と富」の指標「家計の純資産」について、新たに「その国の資産分布の上位10%の家計が所有する純資産の割合」といった測定単位を提起している。この数値が高い国では、富が一部の人々に集中し、経済的な豊かさを手に入れることが困難な人々が多いと考えることができるからである。

このように、「より良い暮らし」を実現する上での不平等について測定するためには、上の一例のほかにもどのような測定単位が考えられるだろうか。【表1】の指標・測定単位、およびこの設問の下線部を参考にしながら、考える測定単位を2つ提案しなさい。そのうえで、なぜその測定単位が「より良い暮らし」を実現する上での不平等について測定するのに有効であるのか、その理由をそれぞれ200字以内で説明しなさい。

問 2

次の文章を読んで、後に続く**設問 1**と**設問 2**に答えなさい。

著作権の関係上、この部分は公開しておりません。

著作権の関係上、この部分は公開しておりません。

設問 1

下線部の「絵画を美術の範疇では見ていない」とは、どういうことか。筆者が述べている「絵画」と「美術」の区別に注目しながら 100 字程度で説明しなさい。

設問 2

筆者は本文に続く箇所で、科学の探求にとってもアート作品にとっても「重要なのは、気付きに基づいているということと、それを知り、それを体験することで、気付きによって気付かされるということ」であると述べている。「気付き」は自らの固定観念を乗り越える視点であり、その意味を理解し、新たな発見へと転化することが「気付きによって気付かされる」ことである。それでは、「気付き」を促す学び方として、具体的にどのようなものが考えられるか。あなたの考えを 500 字程度で述べなさい。

--



小論文 国際地域学科

設問 1 (1) 解答欄 (横書きで記入すること)

[illegible]

受験番号	
------	--

(5枚のうち第2枚目)

国際地域学科

問 1

設問 1 (2) 解答欄 (横書きで記入すること)

[illegible]

受験番号	
------	--

(5枚のうち第3枚目)

国際地域学科

設問2 解答欄 (横書きで記入すること)

--

[illegible]

200字

[illegible][illegible]

200字

受験番号	
------	--

(5枚のうち第4枚目)

國際地域学科

問2

設問 1 解答欄 (横書きで記入すること)

[illegible]

100字

受験番号	
------	--

(5枚のうち第5枚目)

国際地域学科

設問2 解答欄 (横書きで記入すること)

[illegible]